

講義名	地域環境政策			授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

この授業は、地域的環境問題および地球規模の環境問題をとりあげて、その概要や解決のための政策について学びます。国内・海外で実践されているいくつかの環境政策を概観し、政策の背景にある考え方を理解することを目的とします。

環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまです。環境問題に関わる人たちがしばしば口にする「Think Globally, Act Locally」という言葉に象徴されるように、国際的な視野を持ちながら地域の問題を考えた取り組みを進めることが求められるようになってきており、海外の事例に学ぶことが有益である場合も少なくありません。

授業では統計などの諸問題を活用しながら環境問題の現状を客観的に理解するとともに、国内外の環境政策の潮流などについて解説・検討します。あわせて、国内外の多くの事例を紹介し、さまざまな環境問題への適用可能性を探っていくたいと思います。社会科学全般の視点から各種政策を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

到達目標

- 自受講生が、
- (1) さまざまな環境問題を理解するための基本概念を理解し、現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて広い視野から主体的に考察できるようになること、
 - (2) ローカルな環境問題の特徴を理解するとともに、グローバルな環境問題についても地球への影響を理解できるようになること、
 - (3) 環境政策の手段として経済的手法の機能と役割を理解し、地域の環境問題の改善策を提案できるようになること、
- を旨とします。

提出課題

- ・期中に中間レポート課題を提出してもらう予定です。また、期末には期末レポート課題を提出してもらおうか、あるいは定期試験期間中に教室での試験（期末テスト）を行います。履修登録者数が少ない場合（おおむね20名以下の場合）は期末レポート課題、多い場合は期末テストとする予定です。いずれも詳細については授業内で説明します。
- ・ほぼ毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらうことを予定しています。
- ・中間レポート課題では課題について調べて情報を整理すること、期末レポート課題（期末テスト）やリアクションペーパーでは、授業内容の理解度を確認したり、授業等で獲得した知識を応用したり、知識を組み合わせて新しい情報を生み出したりする（＝考える）ことを求める予定です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出された課題やリアクションペーパーについては、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

- ・中間レポート課題40%、期末レポート課題あるいは期末テスト60%の比率で評価します。
- ・授業内容に関する確かな質問や優れたレポート等に対しては、満点を超過して加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

- ・環境問題に関心があるけれども、新聞記事やテレビニュースを理解するための基礎知識に乏しい学生向けの授業です。eco検定（環境社会検定試験）の出題範囲の一部もカバーします。
- ・関連する科目に「都市環境論」があります（持ち上げる事例などに一部重複する部分があります）。
- ・スマホで授業に無関係なサイトの閲覧に關することは他の学生の学籍意欲を低下させますので、厳に慎んでください（集中力を維持してください）。
- ・質問があればスマホを検索するよりも教員に尋ねる方が効果的です（質問力を高めます）。質問等で発言が必要な場合は委員の手で行ってください。
- ・これは、経済学や経済学以外の学生が履修し得る授業です。履修では基礎知識の補強が主となります。扱う情報量は多くならないと想定されています。自分の意見を形成し、それを支えるための多くの情報や知識を得て理解を深め、考えるための土台や枠組みを身につけたい学生向けの授業となります。情報や知識を暗記する必要はありませんが、新しいことを吸収して視野を広げることに関心のない学生にとっては退屈な授業となるでしょう。

教科書

・特定の教科書は使用しません。

参考図書

・環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（令和5年版）	環境省			
・改訂10版 環境社会検定試験eco検定公式テキスト	東京商工会議所（編著）	日本能率協会マネジメントセンター	2,860	9784800592958
・グラフィック環境経済学	浅子和美・落合勝昭・落合由紀子	新世社	3,190	9784883842216

その他

- ・担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料（PDFファイル）はキャンパスログインから無料ダウンロード可能です（<https://www.env.go.jp/policy/hakusyol/>）。授業では「令和8年版」（2026年6月公表予定）を主に参照する予定です。過去の白書を参照することもあります。その都度ウェブサイトを確認してください。
- ・その他の参考図書は必要に応じて適宜授業中に紹介します。

授業計画

- 第1回 イントロダクション： 授業のねらいや環境問題の実際について
（予習）シラバスをもう一度熟読する。事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第2回 環境をめぐる国内の動き。 環境問題と環境政策の歴史。環境基準について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第3回 環境政策の考え方。 環境問題と経済活動の関係。環境政策の手段について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第4回 環境と持続可能な発展： 持続可能な発展の考え方。発展上の開発。発展と環境について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第5回 産業政策と環境政策： 産業の現状と産業活動の経済学的特徴について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第6回 循環型社会への取り組み。市場を活用した資源有効利用について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第7回 エネルギー問題と環境政策（1）： エネルギー資源の現状と政策について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第8回 エネルギー問題と環境政策（2）： エネルギー資源の現状と政策について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第9回 企業行動と環境政策： 環境政策と企業の環境配慮行動について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第10回 金融と環境政策（1）： 金融と環境政策の関わりについて
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第11回 都市、まちづくりと環境政策（1）： 環境政策のまちづくりに関する経済的手法について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第12回 都市、まちづくりと環境政策（2）： 環境政策のまちづくり、グリーンシティについて
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第13回 生物多様性と環境政策： 生物多様性保全のための経済的手法について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第14回 プラスチックごみと環境政策： 海洋プラスチックごみ問題の現状と対策について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第15回 環境と経済社会： 環境負荷の見え方。循環型の考え方について
（予習）事前配布資料に目を通し、授業内容に関するイメージを持っておく（1時間）
（復習）授業内容に関して自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べる（3時間）
- 第1回～第4回は総論、第5回～第15回は各論になります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の「到達目標」を達成することで、人間、社会、自然に関する学際的問題である環境問題や、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、身近な課題を通じて理解できるようになり、さらに、地域社会で生起するさまざまな環境問題に関して、経済学を基礎とした改善策を提案できるようになります。

これは、経済学や経済学以外の学生が履修し得る授業です。履修では基礎知識の補強が主となります。扱う情報量は多くならないと想定されています。自分の意見を形成し、それを支えるための多くの情報や知識を得て理解を深め、考えるための土台や枠組みを身につけたい学生向けの授業となります。情報や知識を暗記する必要はありませんが、新しいことを吸収して視野を広げることに関心のない学生にとっては退屈な授業となるでしょう。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

リアクションペーパーの提出などにクリック（レスポンス）を利用する予定です。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

特になし